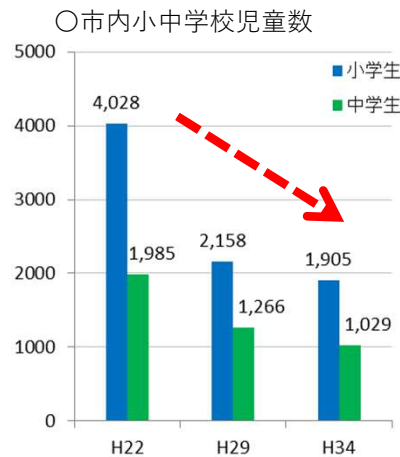


1 はじめに

市教育委員会では、平成28年度から小中学校の適正化(適正規模・適正配置)の検討を始め、学識経験者、PTA、地区の代表等で組織する「南相馬市公立学校適正化検討委員会」(以下、「検討委員会」という。)を設置し、児童生徒数の推移等の現状を共有し、学校適正化に関するアンケート調査結果及び検討委員会での意見を踏まえ「南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)」をとりまとめ、市内小中学校の望ましい適正化基準(1学級あたりの児童生徒数・1学年あたりの学級数)を定めました。

2 学校規模の現状



年度	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
原一小	598	400	▲198	▲33.1
原二小	331	168	▲163	▲49.2
原三小	538	330	▲208	▲38.7
高平小	193	121	▲72	▲37.3
大蘆小	204	123	▲81	▲39.7
太田小	133	43	▲90	▲67.7
石一小	187	63	▲124	▲66.3
石二小	486	292	▲194	▲39.9
鹿島小	317	368	▲51	▲16.1
真野小	75	75	▲75	▲100.0
八沢小	120	78	▲42	▲35.0
上真野	141	110	▲31	▲22.0
小高小	392	47	▲345	▲88.0
福浦小	105	8	▲97	▲92.4
金房小	143	4	▲139	▲97.2
鳩原小	65	3	▲62	▲95.4
計	4,028	2,158	▲1,870	▲46.4

3 これまでの検討経過

年度	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
原一中	506	342	▲164	▲32.4
原二中	318	238	▲80	▲25.2
原三中	163	82	▲81	▲49.7
石神中	319	252	▲67	▲21.0
鹿島中	297	286	▲11	▲3.7
小高中	382	66	▲316	▲82.7
計	1,985	1,266	▲719	▲36.2

- 計9回の検討委員会での協議
- 適正化アンケート調査
- 通学状況調査
- 小学校クラブ
- 中学校部活動調査
- 区域外就学状況調査

4 学校適正化の基本的な考え方

検討委員会の意見を踏まえ、平成29年5月に「南相馬市における学校適正化の基本的な考え方」を定めた。

- ①児童生徒の教育環境を最優先に考えた適正規模及び適正配置
- ②保護者や地域住民の意見への配慮
- ③小高区復興の促進

5 学級規模(1学級あたり児童生徒数)の検討

◆望まれている1学級の児童生徒数

対象別	小学校	中学校
保護者・一般市民	21~30人	21~30人
教職員	21~25人	21~25人

◆学級人数を決めるのに重要なこと(上位回答)

- ・学習指導がきめ細かい
- ・子どもに向き合う時間多
- ・コミュニケーション能力が身に付く

6 学校規模(1学年あたり学級数)の検討

◆学校規模を決めるのに重要なこと(上位回答)

- ・一人ひとりが活躍できる機会が多い
- ・学級同士が切磋琢磨できる環境が多い
- ・学習指導等がきめ細かくできること
- ・人間関係が固定化されないこと
- ・クラブ活動の充実

アンケート調査結果より

◆調査結果を踏まえた児童生徒の教育環境視点による学級人数の検討

- 教育環境視点1-1 「教員が児童生徒に目が行き届き、きめ細かい教育ができる環境」
⇒小学校21~25人・中学校21~30人
- 教育環境視点1-2 「主体的に学び合う活動と集団学習ができる環境」
⇒小学校21~25人・中学校26~30人
- 教育環境視点1-3 「学級内でコミュニケーション能力の育成及び切磋琢磨できる環境」
⇒小学校21~25人・中学校26~30人

◆調査結果を踏まえた児童生徒の教育環境視点による学級数の検討

- 教育環境視点2-1 「学校行事等で児童生徒が一人ひとり活躍できる環境」
⇒小学校1~3学級・中学校2~4学級
- 教育環境視点2-2 「多様なものの見方や考え方をもつ児童生徒が出会える環境」
⇒小学校2学級以上・中学校2学級以上
- 教育環境視点2-3 「クラブ活動や部活動、学校行事等において多様な選択ができる環境」
⇒小学校2~3学級・中学校2~4学級

7 望ましい適正化基準

視点	人数	<小学校>望ましい学級人数												
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
教育環境視点 1-1				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 1-2				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 1-3				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
適正化基準				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←

視点	学級数	<小学校>望ましい学級数					
		1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1		←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-2		←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-3		←	←	←	←	←	←
適正化基準		←	←	←	←	←	←

小学校
望ましい適正化基準
○1学級の児童数 21~25人
○1学年の学級数 2~3学級

視点	人数	<中学校>望ましい学級人数												
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
教育環境視点 1-1				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 1-2				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 1-3				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
適正化基準				←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←

視点	学級数	<中学校>望ましい学級数					
		1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1		←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-2		←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-3		←	←	←	←	←	←
適正化基準		←	←	←	←	←	←

中学校
望ましい適正化基準
○1学級の生徒数 26~30人
○1学年の学級数 2~4学級

8 今後の進め方

南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)

平成30年8月策定(予定)
南相馬市公立学校適正化計画

平成30年10月以降(予定)
○○地区懇談会

対象地区の合意形成

平成31年4月以降(予定)
○○地区再編計画

◎今後、皆様のご意見を踏まえつつ、PC実施及び地域協議会への報告も必要に応じ取組むなど、丁寧に進めて参ります。